

# 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和5年第Ⅱ四半期（4～6月）

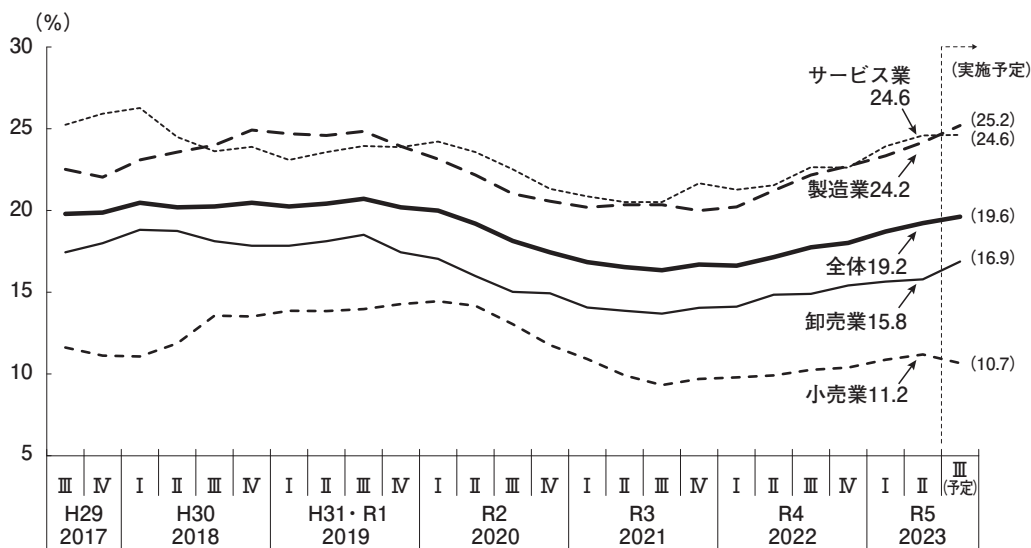
**設備投資：5期連続で上昇**      **資金繰り：やや悪化**  
**採算状況：ほぼ横ばいで推移**      **雇用人員：不足感の高まりが一服**

## ■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（令和5年4～6月）に設備投資を「実施した」割合は全体では19.2%となり、前期（令和5年1～3月）の18.7%からやや上昇し、5期連続で上昇の動きとなった。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は製造業24.2%（前期23.4%）が上昇、サービス業24.6%（同23.9%）はやや上昇、小売業11.2%（同10.9%）がわずかに上昇した。卸売業15.8%（同15.7%）はほぼ横ばいで推移した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和5年7～9月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では19.6%となり、わずかに上昇する見通しとなった。

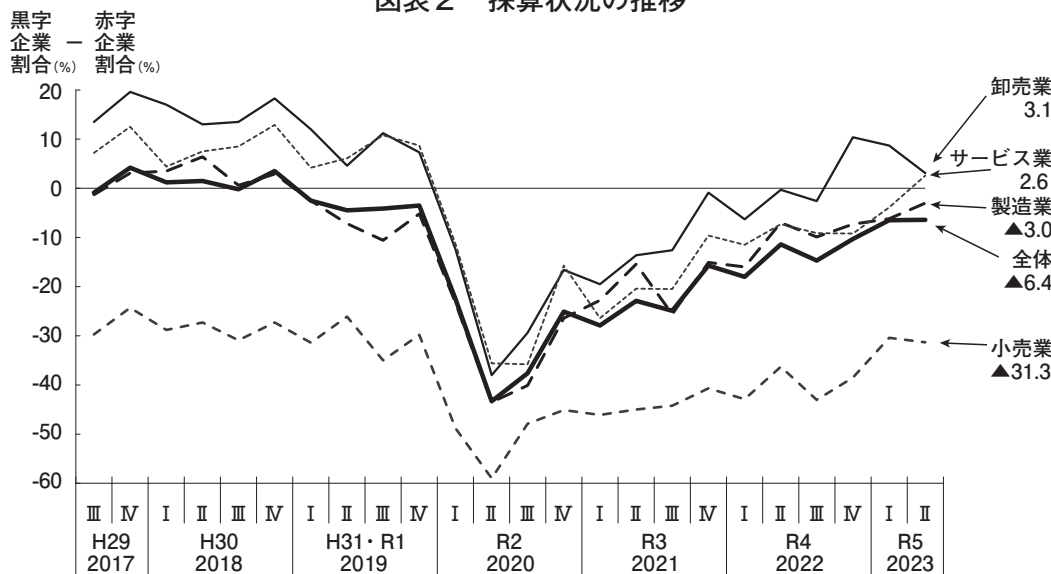
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べて製造業25.2%と卸売業16.9%はともに大幅な上昇が見込まれる。一方、小売業10.7%はやや低下する見通しとなった。

## ■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合で見ると、全体では▲6.4（前期▲6.5）となり、ほぼ横ばいで推移した。

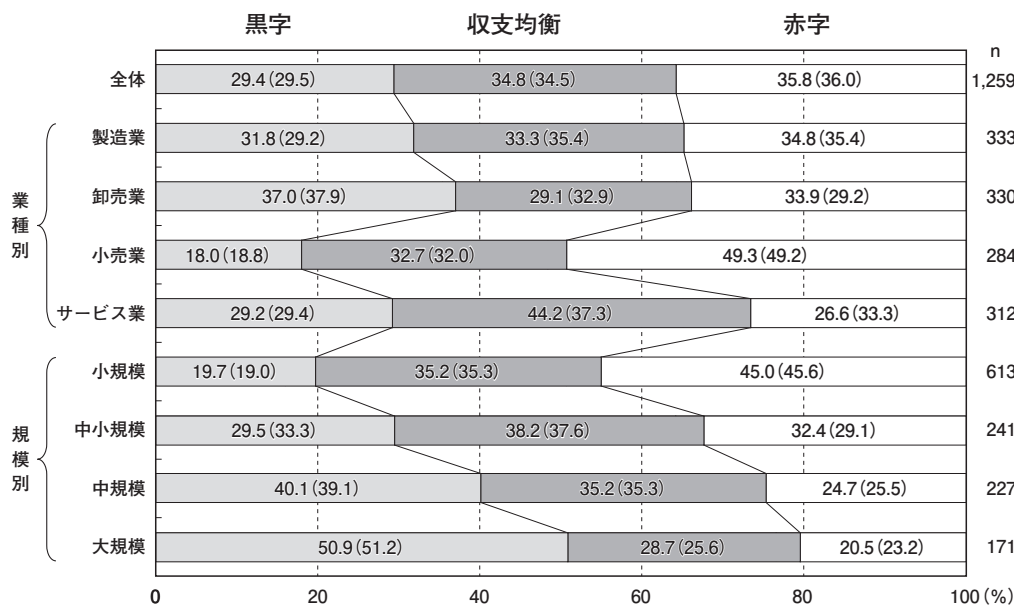
業種別にみると、サービス業2.6（同▲3.9）は6.5ポイント増加し大幅に改善、製造業▲3.0（同▲6.2）は3.2ポイント増加し改善した。一方、卸売業3.1（同8.7）は5.6ポイント減少し悪化した。

図表2 採算状況の推移



規模別にみると、規模が大きくなるほど黒字の割合が高くなる傾向がみられ、大規模は黒字が50.9% (同51.2%)を占めた。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和5年1~3月)の数値。  
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

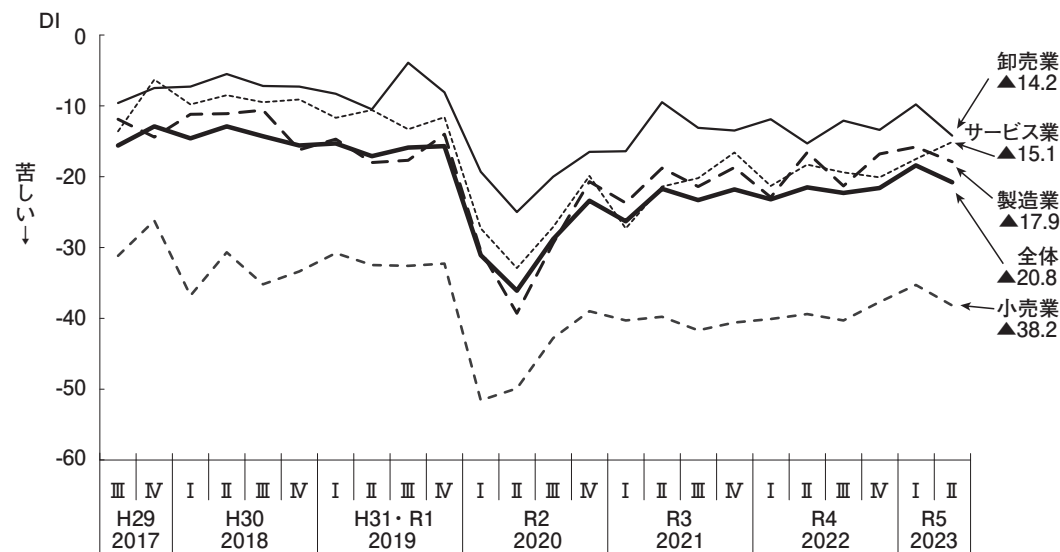
## 資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI(「楽」-「苦しい」)でみると、全体では▲20.8(前期▲18.4)と2.4ポイント減少しやや悪化した。

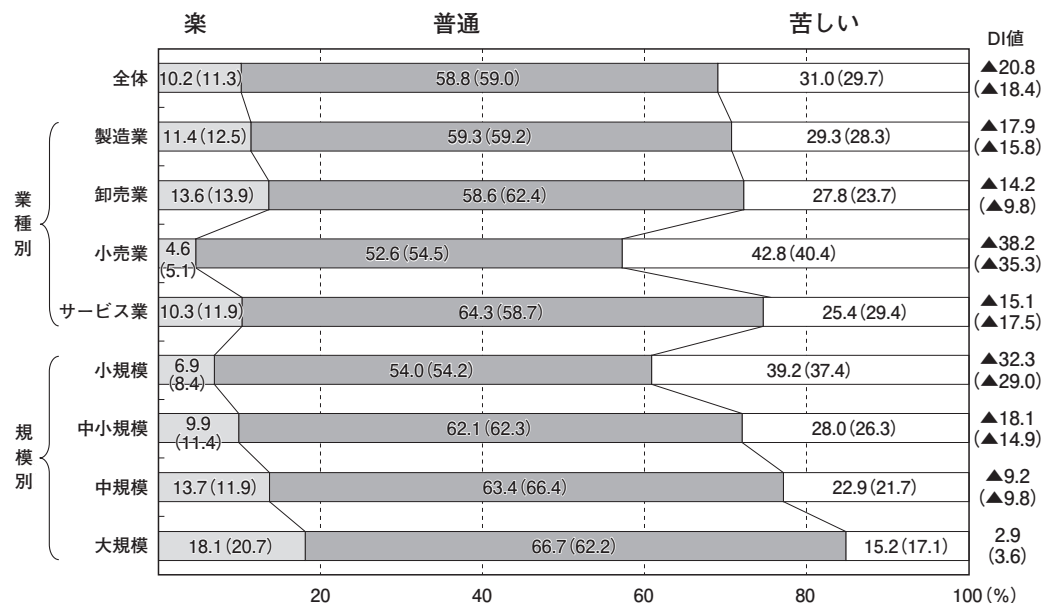
業種別にDI値をみると、卸売業▲14.2(同▲9.8)は4.4ポイント減少し悪化した。小売業▲38.2(同▲35.3)は2.9ポイント減少、製造業▲17.9(同▲15.8)は2.1ポイント減少とともにやや悪化した。一方、サービス業▲15.1(同▲17.5)は2.4ポイント増加しやや改善した。

規模別にDI値をみると、小規模▲32.3(同29.0)は3.3ポイント減少、中小規模▲18.1(同14.9)は3.2ポイント減少とともに悪化した。大規模2.9(同3.6)は0.7ポイント減少しわずかに悪化した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）



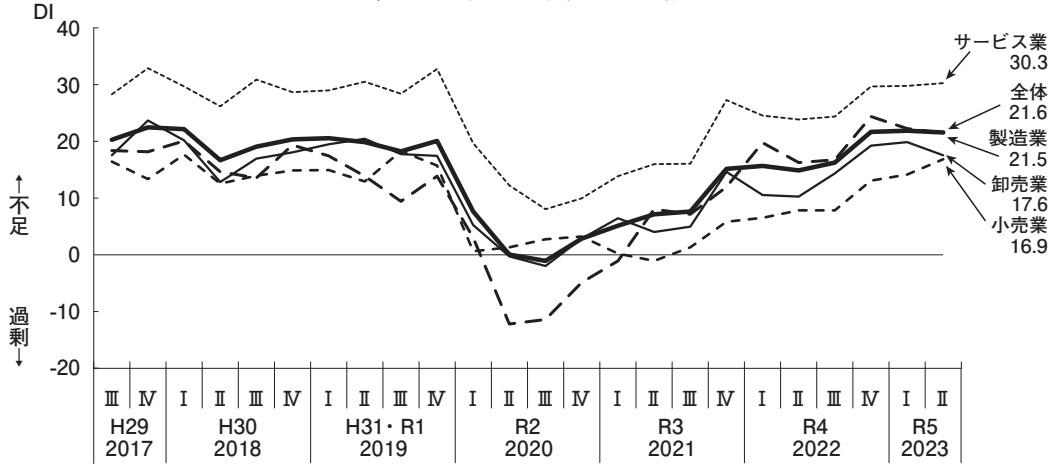
注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和5年1~3月)の数値。  
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

## ■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI(「不足」-「過剰」) でみると、全体では 21.6 (前期 21.9) となり、不足感の高まりが一服した。

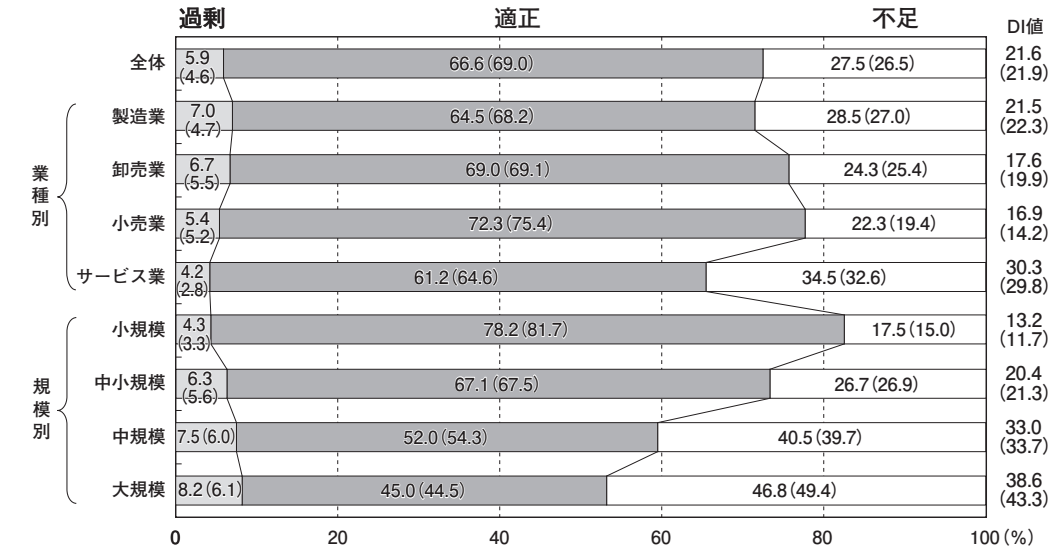
業種別にDI 値をみると、卸売業 17.6 (同 19.9) は 2.3 ポイント減少しわずかに低下した。

図表6 雇用人員DIの推移



規模別に DI 値をみると、大規模 38.6 (同 43.3) は 4.7 ポイント減少しやや不足感が弱まった。

図表7 雇用人員の状況 (業種別・規模別)



注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和5年1~3月)の数値。  
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。